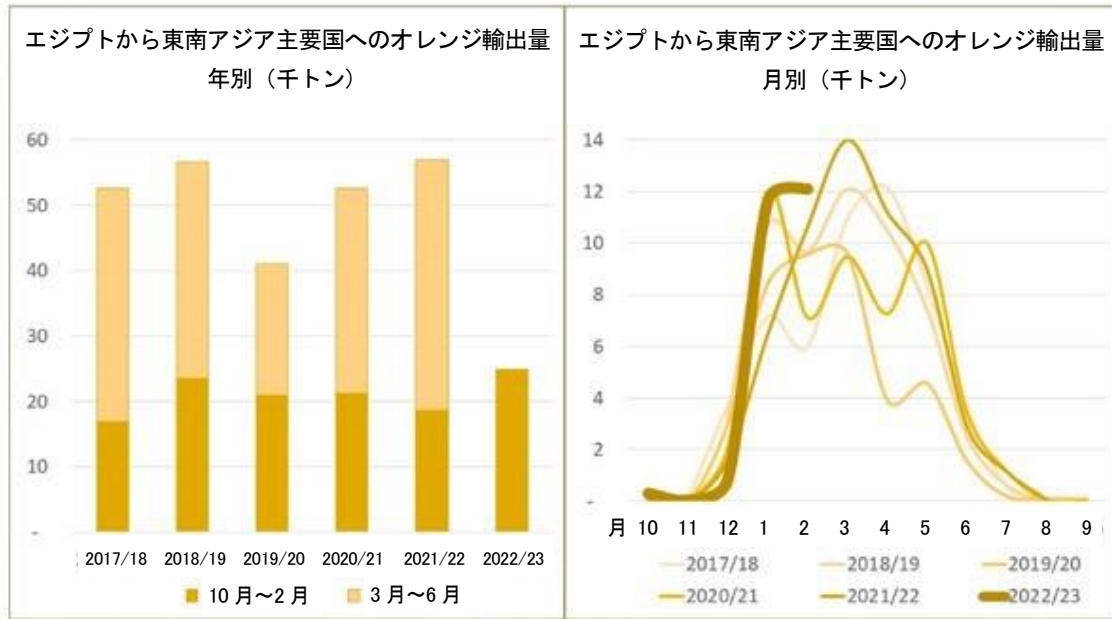


エジプトの柑橘類輸出

1. エジプトは北半球で最大の東南アジア向けオレンジ輸出国

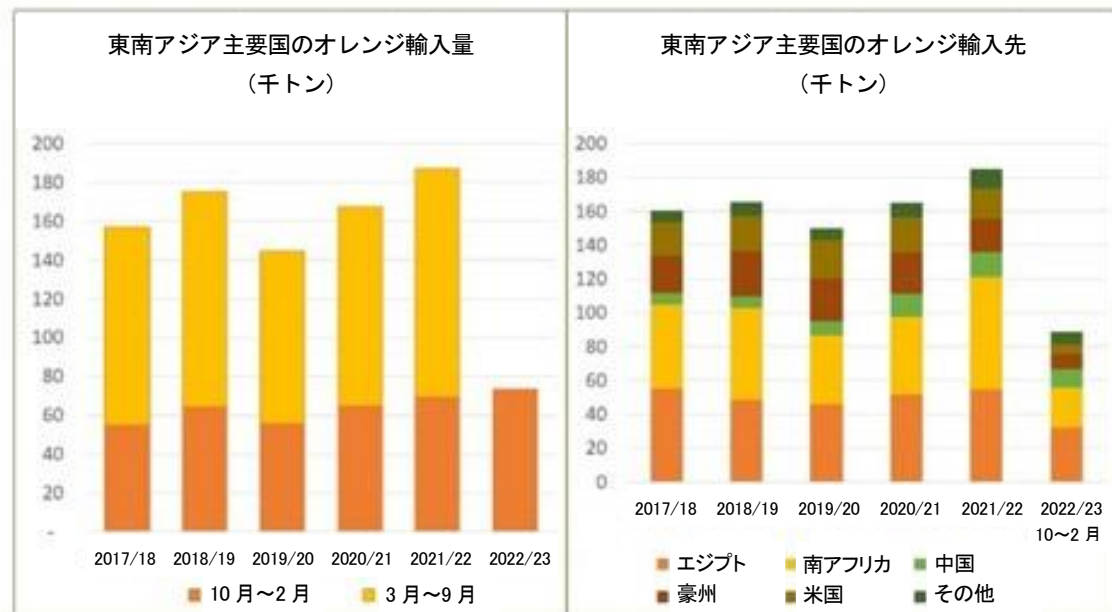
FreshPlaza 2023年4月24日

情報サイトEastFruitは、エジプトが東南アジア地域へのオレンジの輸出を積極的に増やしていると伝えている。さらに、エジプトは引き続き同地域への北半球最大のオレンジ供給国となっている。



今シーズンの最初の5か月(2022年10月～2023年2月)に、エジプトは約2万5千トンのオレンジを東南アジアの主要国(マレーシア、インドネシア、シンガポール、タイ、カンボジア)に輸出し、この時期の輸出品としては少なくとも過去5年間で最多となった。

エジプトはまた、引き続きこの地域への北半球最大のオレンジ供給国であり、輸出品に関して(南半球の)南アフリカに次いで第2位である。なお、南アフリカの輸出品のピークは7月～10月であり、エジプトは1月～5月にオレンジの大部分を輸出するため、エジプトの輸出品業者が南アフリカと直接競争することはほとんどない。



東南アジアのこれらの国々は合計で、シーズン中に15万～18万トンのオレンジを輸入するが、この地域の市場への供給は、依然として少数の輸出国に非常に集中している。2つの主要輸出国(南アフリカとエジプト)は、この地域でのすべてのオレンジ供給量のほぼ3分の2を提供し、供給国トップ5(南アフリカ、エジプト、中国、オーストラリア及び米国)の合計シェアは年によっては96%に達することもある。

中国が東南アジア諸国のオレンジ市場におけるエジプトの主な競争相手であることに留意すべきである。ただし、中国からのオレンジの供給は主にベトナムに集中しており、よりプレミアムな市場(マレーシア、シンガポール等)での存在感は依然として限られている。それにもかかわらず、中国からこの方面への輸出も伸びており、5シーズンで2倍以上の1万5千トンになった。

東南アジア諸国では、エジプトは米国の輸出業者とも競合しているが、米国からの輸入は近年減少している。5シーズン前、米国はこれらの国への総供給量の13%を占めていたが、2021/22年度にはそのシェアは9%に減少し、エジプトからの輸入量約5万5千トンに対して、米国からの輸入量はわずか1万7,300トンであった。

スペインの輸出業者は、東南アジアの市場では一層影が薄い。スペインからこの地域へのオレンジの輸出量は昨シーズンわずか2,700トンで、エジプトの輸出量の20分の1であった。

出典: east-fruit.com

2. エジプトの柑橘類の輸出量が200万トンに近づく

FreshPlaza 2023年4月25日

エジプトでは柑橘類の輸出シーズンが活況を呈しており、輸出量は昨年を上回っている。毎年の輸出額は10億米ドルに近づいており、これは外貨獲得の面で同国に大きな経済的利益をもたらしている。アルマンシ社(AlMansi Fruit: エジプトの柑橘類生産・輸出企業)のムハンマド・シャカー販売部長が、今シーズンの状況について語った。(以下「」は同部長の話)

同部長が提供した業界統計によると、エジプトは出荷シーズン終了の3～4か月前に当たる現在までに150万トンのさまざまな柑橘類を輸出しており、これは昨年の同時期と比較して10～15%多い。「我が国の柑橘類の輸出量は今シーズンの終わりまでに200万トンを超えると予想される。」同部長によるとこれは史上最高記録であり、その外貨獲得が毎年10億米ドルの大台に近づいている柑橘類産業は、重要な外貨獲得源となっている。

この輸出業者によると、今年の需要は強く、多様である。「エジプトの柑橘類にはいくつかの輸出先があり、シーズンの初めにはサウジアラビア、ヨルダン、アラブ首長国連邦から始まり、その後今年世界一となったオレンジの季節が到来し、バングラデシュ、インド、サウジアラビア、ヨルダン、ウルグアイ、さらにラマダン期間直前のイスラム諸国から非常に大きな需要があった。これに続いて、ブラジルとヨーロッパ諸国からの需要が集中し、今年は特にスペインの出荷量が少なく、同国に輸出するほどであった。スウェーデン、スペイン、イタリア、ギリシャなどのヨーロッパ諸国からはまだ強い需要がある。」

ほとんどの支払いは米ドルで行われ、次にユーロで行われた。同部長によると、輸出業者らはほとんどの場合支払いの問題に直面しなかったが、シーズンの初めには有害な行為が見られた。「一部の企業は手数料を払って委託販売で輸出することに熱心であった。これでは商品がしかるべき価格で扱われないため、これは重大な誤りであった。我々は最終的にどうにか状況を立て直し、相互尊重と相互信頼の精神ですべての関係者にいくつかの支払い方法を課し、また常連の顧客にはそれらがより容易になるようにした。弊社は今シーズン、適切な顧客に信頼を置いた結果、請求書の未払いが全くなかったと報告できることを嬉しく思う。」

エジプトポンドの切り下げも、年初には混乱を引き起こしたものの、輸出業者にわずかながら経済的利益をもたらしたと同部長は言う。「通貨の切り下げにより、価格設定の方針が曖昧になった。特に多くの輸出業者

が闇市場での外貨交換に頼った際には輸出業者間の不自然な価格差を引き起こした。切り下げ後に均衡し明らかになった価格は、我々にとってわずかに有利であった。しかし、反対に、輸入される資材やサービスのコストは現地通貨で増加した。我々は、包装、コーティング、消毒用の最高級の資材を大手国際企業からかなりの価格で輸入している。」

エジプトの柑橘類産業は、管理者、労働者、技術者、事務職員など多くの労働力を雇用している。これは現地通貨で支払われる巨額の人件費を意味し、エジプトポンドの切り下げの影響を輸出業者に有利にしている。

「エジプトには、輸出業者専用の柑橘類梱包施設が2,500以上あり、生産者や柑橘類に間接的に依存しているその他の産業を除いて、1社あたりの平均労働者は500人である。このセクターは労働力の大きな部分を吸収しており、その失業率低下への影響は外貨流出(の防止)と同じくらい重要である。実際、100万人以上の従業員の人件費は現地通貨で支払われており、これは業界の競争力を高めているが、通貨の切り下げは購買力とインフレの点で我々の社会に不利になることを忘れてはならない。政府は、この激しい経済危機の中で、インフレを抑制し、経済の車輪を回すために可能な限りのことをしている。」

同部長は、柑橘類産業の成長を最大限に活用するには、その国内経済への一層の統合が必要であると言う。「投入資材、包装、コーティング、消毒用品などの費用は生産費の最大75～80%に達し、これらの資材の50～60%が輸入されている。為替レートを最大限に活用するために、これらの産業をエジプト経済に統合する必要がある。柑橘類産業の(国内経済への)さらなる統合は、柑橘類だけでなく他の農業部門にも利益をもたらす関連産業の発展を可能にし、国内の資源を最大限に取り込んだ価値循環を達成するだろう。」

同部長によると、エジプトではこうした産業がすでにくつか確立されているが、現在の国際競争の状況はそれらに有利ではない。「品質要件はコストを増加させ、価格が輸入品よりも高くなる。これらの企業が競争力を高めれば — それが早いことを望むが — 我々は彼らと協力することに躊躇しない。我々はすでにバリューチェーンの一部について限られた数のエジプトの製造業者と協力しており、彼らが提供するものの品質に大変満足している。」

「我々は、それぞれの立場から、このプロセスの重要性を認識している。政府はすでにこの方向性のプロジェクトを実施しており、物流の基幹部分の強化から着手して、業務の流動性、輸出業者への支援、輸出プロセスの改善に関して今年は多くのことが見られる。こうした取り組みが中期的に実を結ぶことを期待している。これにより、柑橘類関係者の効率が良くなり、生産量を最大化し、輸出を迅速化できるようになる。これは柑橘類セクターが、より魅力的で、より強く、(国内経済に)より統合されたものとなる第一歩である。」

執筆者: ユネス・ベンサイド